

坂出・綾歌支部 活動報告

1 研究主題

確かな学力を育むための「わかる授業」の創造
—メディア活用の目的を明確にした授業づくり—

内容：研究授業、研究討議、各中学校での実践事例についての情報交換

(3) 11月8日

場所：綾川町立綾南中学校

内容：研究授業、研究討議、各中学校での実践事例についての情報交換

2 はじめに

「生きる力」を育むという新学習指導要領の基本理念を実現するため、基礎的、基本的な知識や技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力の育成などがポイントとしてあげられている。特に、多様な情報の中から必要な情報を効率的に選択し、それらをもとに自分の考えや思いを主体的に表現・発信する力の育成を図ることが学校教育に求められていると考えられる。それはまさにメディア教育の担う役割であり、急激に加速する社会の高度情報化に伴ってますます重要性を増している。

そこで、本部会では「わかる授業」の創造を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の育成を目指すこととした。そして、「わかる授業」づくりの方法・技術等を整理し明らかにしながら、より効果的な質の高い教育実践に繋げていくための「メディア活用」の在り方について、実践研究をふまえて検討を行った。

3 研究計画

(1) 4月23日

場所：綾川町立綾南中学校

内容：研究組織及び主題の決定、研究の進め方についての共通理解

(2) 6月19日

場所：綾川町立綾上中学校

4 研究の内容

(1) 研究授業Ⅰ(6月19日)

ア 第1学年 技術・家庭科(技術分野)

題 材 製作品の設計・製作

授業者 善生 和宜

イ 本時の目標

製作に必要な作業手順を考え、製作工程表をつくることができる。

ウ 学習指導過程

(ア) 本時の学習課題を確認する。

(8種類の組み立て図を提示し確認する。)

(イ) コンピュータを活用し行程表を作成する。

① 作業の手順の説明を聞く。

② 各自で行程表を作成する。

③ ②の工程表をもとに意見を出し合う。

④ 実際に製作で活用する行程表を完成する。

⑤ 完成した工程表を印刷する。

⑥ 行程表の備考欄に作業に関する情報を調べて記入する。

(ウ) 振り返り、まとめを行う。

エ 討議内容

今回の実践は「アナログとデジタルの融合」を目指している。パソコンでデジタル処理したデータを紙媒体でアナログ処理し、メディ

ア教材と紙媒体の教材を使い分けるという、実験的な授業であった。

木材加工という従来ならメディア教材の導入が少ない題材において、視覚的に分かりやすく生徒の興味を引きやすいメディア教材を使って、実際の作業の土台を作ることが、生徒の「わかる」を引き出せていた。ただ、本授業の中に、生徒の技能や創意工夫を引き出せる授業展開があればもっと良かったのではないかという意見もあった。

(2) 研究授業Ⅱ(11月8日)

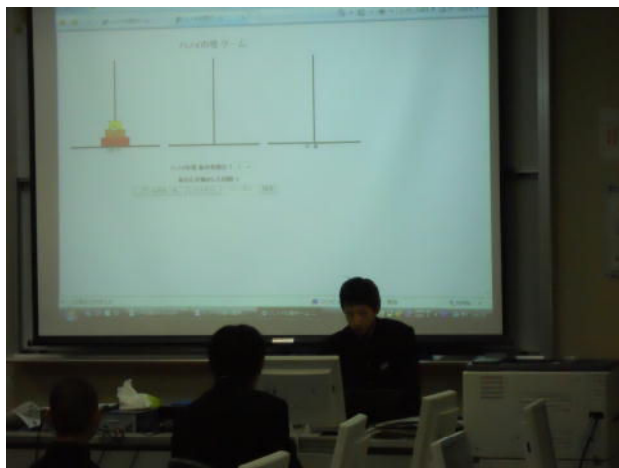
ア 第1学年 数学科

題材 「ハノイの塔」

授業者 乃村 和寛

イ 本時の目標

- ・ 操作を図に表したり、移動回数を表に記録することによって移動回数と移動のしかたの規則性を見つけようとする。
- ・ 課題の解決に向けて、意欲的に取り組み、様々な思考をすることができる。



ウ 学習指導過程

(ア) 「ハノイの塔」のルールについて知る。

(イ) 3段のハノイの塔に取り組む。

(コンピュータを利用して行う。)

(ウ) 1段、2段の移動回数を確認する。(〃)

(エ) 4段のハノイの塔に取り組む。(〃)

(オ) 5段のハノイの塔に取り組む。

(ペアで移動回数を予想させ、実際の移動をコンピュータで見る。)

(カ) 10段のハノイの塔の移動回数を予想する。

(キ) ハノイの塔の物語の後半部分を聞き、64段の予想や世界の終末を予想する。

エ 討議内容

このメディア活用の主な目的は2つある。

1つは、「ハノイの塔」の教材を実物で作るための授業者の負担の軽減。もう一つは、生徒が、何度もやり直しながら作業することができるようにすることである。

また、本実践ではリアルタイムの映像配信や、授業用に改良されたソフトウェアの活用など、新しいメディア活用の提案も兼ねたものとなっていた。

課題としては、授業準備が誰でも容易にできるものではないことと、各校におけるインフラの整備が十分に行われていないことが挙げられる。

5 今後の課題

今回の実践研究では新しいメディア活用が多く提案され、目的を明確にしたICT機器の授業活用が期待された。しかしその反面、活用に手間がかかることや設置や操作上の不安も指摘された。

「わかる授業」のためのメディア促進には、これらの不安要素を克服する環境整備や校内研修の充実等が求められる。また、教員の不安要素を打ち消すような教育効果の高い「わかる授業」の実例を具体的に示し、広く伝えていくことが必要である。